

令和4年度ヒラメ瀬戸内海系群・マダイ瀬戸内海中・西部系群 資源評価会議 議事要録

日 時：令和4年8月18日（木） 13：00～15：00

場 所：ホテルセンチュリー東方2001（広島市）およびリモート方式（Microsoft Teams）

参加者：外部有識者及び事業関係者 合計55名

概要

ヒラメ瀬戸内海系群およびマダイ瀬戸内海中・西部系群の資源評価報告書案について議論した。両系群ともに、昨年度にMSY等管理基準値を提案しており、水産政策審議会資源管理分科会資源管理手法検討部会において説明されている。今年度の資源評価報告書の内容は、これらMSY等管理基準値案に基づく最新年のデータ追加による資源評価の更新結果であり、両系群ともに微細な修正を前提に報告書案は承認された。

各論

1. ヒラメ瀬戸内海系群

外部有識者より、報告書冒頭の要約や要約表の数字について、百トン単位で丸められている理由を問われ、担当者より、どの単位で書くかは各魚種で決めてよいことになっており、予測値については数値を丸めて百トン単位としていることを回答した。

外部有識者より、漁獲量としては増えていない中、資源量は過去最高をさらに更新していることについて各府県の現場感覚を問われ、担当者より漁獲物の体長組成も実際に大きくなっていること、各府県事業関係者より近年連続した加入が見られていることおよび、その状況が漁獲データにも現れていることが回答された。

外部有識者より、将来予測でも近年の高加入が継続すると仮定しているのか問われ、担当者より加入は再生産関係式から求めていると回答した。

事業関係者より、CPUEを得るための標本船がそれぞれの県の漁獲を代表するものと捉えてよいか問われ、各府県事業関係者より、標本船の操業に偏りはないことおよび、担当者よりCPUEの計算方法を変えてもほぼ同じ結果となることが確認された。

事業関係者より、管理基準値について、SH会合へ向けて最新の値に更新するのが良いとの意見があり、担当者より、再生産関係や計算方法が大きく変わった際には再検討が必要と回答した。

2. マダイ瀬戸内海・中西部系群

外部有識者より遊漁の情報の有無について問われ、担当者より、公式な情報としては2009年時の漁業センサスであり、漁獲量の10%で下位の主要漁業の漁獲量にあたること、遊漁船のログ等の値からおおよその遊漁量を計算したところ、広島県の遊漁船だと漁獲量の

うち遊漁が占める割合は10%程度と回答した。

事業関係者より、放流の添加効率が本系群と瀬戸内海東部系群で1桁くらいオーダーが異なる理由を問われ、担当者より、今回、東部系群については計算方式を変更して精度向上したため、両系群の単純な比較はできないが、今後は本系群でも東部系群と同様の方法で試算を検討する、と回答した。

外部有識者より、コホート解析でチューニングはしないのか問われ、担当者より、チューニングに足る精度の高い指標値が見つかっていないため、チューニングを導入していないと回答したところ、外部有識者よりその旨を補足資料に記載すべき、との助言があった。

3. 外部有識者講評

ヒラメ・マダイどちらも資源が増加している中、比較的漁業者への説明がしやすいのかと思う一方で、漁獲が増えると価格が下がると漁業者が積極的に取りに行かなくなる可能性もある。現場のそういった状況も情報収集して、より良い資源評価に向けて取り組んでいただきたい。

以 上